

令和7年度大学・高専機能強化支援事業
(支援1：学部再編等による特定成長分野への転換等に係る支援)
事業概要

令和7年2月申請時点

1. 基本情報

大学名	京都先端科学大学	設置区分	私立
学校種	大学	都道府県	京都
大学全体の総収容定員	4,400名 ※令和6年5月1日時点		
学部学科 組織構成	経済経営学部（経済学科、経営学科） 人文学部（心理学科、歴史文化学科） バイオ環境学部（生物環境科学科、応用生命科学科） 健康医療学部（看護学科、言語聴覚学科、健康スポーツ学科） 工学部（機械電気システム工学科）		
事業計画名	京都先端科学大学 人間と社会の理解の上にAIとデータサイエンスを能動的に駆使できる専門人材を育成する学部の新設		

2. 事業概要

社会のグローバル化により国際間の競争が激化する環境において、少子高齢化の進む我が国の産業競争力の低下を食い止めるためには、各企業においてデジタル化を進め、生産性の向上や新ビジネスの創出を図り、グローバル社会で展開して行くことが求められている。本事業では、AIが社会に進出しデータサイエンスの知識が必須となっている現代社会において、人間と社会を深く理解しつつ、AIとデータサイエンスを適確かつ能動的に駆使できる専門人材を育成するため、「社会情報学部（仮称）」（入学定員80名、収容定員320名）を2028年度に新設する計画である。

新学部においては、文理融合の学科の特色を生かし、人間と社会に関する社会科学の基礎の徹底を図るとともに、AIとデータサイエンスの基礎的な知識を、実際の課題解決を通じた実践的な学び（PBL）を駆使しつつ修得するための教育課程を編成する計画である。同時に、本学の教育理念に基づきグローバル社会に適應する英語によるコミュニケーション力及び表現力の修得を図る。

3. 本事業で新たに設置等を行う組織

改組予定年度	令和10年度					
認可申請・届出の別	認可申請					
改組内容	学部の新設					
設置等組織名	社会情報学部 社会情報学科（仮称）					
設置等組織の学位分野	工学関係	経済学関係	社会学・社会福祉学関係	-	-	-
当該学部等の所在地	京都府京都市右京区山ノ内五反田町					
入学定員	新設予定					
収容定員	新設予定					
入学定員の増加数	80名					
他学部等の入学定員の減少数	80名					

事業計画名 京都先端科学大学 人間と社会の理解の上にAIとデータサイエンスを能動的に駆使できる専門人材を育成する学部の新設

基本情報

改組予定年度	令和10年度	設置等組織名	社会情報学部 社会情報学科(仮称)	入学定員増数(合計数)	80名
所在地	京都府京都市右京区	改組内容	学部の新設	入学定員減数(合計数)	80名

<新学部の4つのポイント>

1. AIとデータサイエンスを駆使できる専門人材の育成:人間と社会とそれらをつなぐ情報を深く理解し、AIとデータサイエンスを活用して課題解決ができる能力を養う。
2. 文理融合の学びと問題解決能力の向上:社会科学とAI・データサイエンスを融合し、**キャップストーンプログラムやPBL**などの実践的な学びを通じて論理的思考力「ものの考え方」を鍛える。
3. リベラルアーツとグローバル対応力の強化:現代社会に必要な**幅広い知識**を身につけ、**英語での専門科目**の提供を通じグローバル社会に必要なコミュニケーション力と発信力を磨き、**国際社会で活躍できる能力**を養う。
4. 実社会で活躍する「ストリート・スマート」な人材の輩出:グローバルに展開する**企業91社(キャップストーンコンソーシアム)**と**連携**し、実社会に即した課題解決に取り組み、変化の激しい社会で柔軟かつ知的に行動できる即戦力人材を育成する。

<社会や地域のニーズ・課題>

進行する少子高齢化に対し安定した社会を維持して行くためには、経済の成長力を底上げしていくことが課題となっている。

社会のグローバル化により国際間の競争が激化する環境において、我が国の産業競争力の低下を食い止めるためには、各企業においてデジタル化を進め、生産性の向上や新ビジネスの創出を図り、グローバル社会で展開して行くこと必要であり、これらに対応できる人材の育成が早急に求められている。

<連携を通じた教育体制の整備>

世界の企業から実際の課題の提供を受け、教員の指導の下、課題解決に取り組む、実践的な学修を行う。国際社会で活躍するために、海外提携校、海外企業との連携を図る。

<多様な入学者の確保>

- ・女子学生比率を高める方策(女子生徒推薦枠、附属校・連携校女子学生への啓発授業、独自入試 など)
- ・海外から優秀な留学生を確保するための方策(留学生への特別入試、留学生支援の手厚さの特性を海外大学等へ積極的アピール など)
- ・リカレント教育を行う社会人学生を確保するための方策(既卒社会人への特別入試、ビジネススクールへ学生を送り出している企業への積極的アピール、社会人に合わせた弾力的な授業運営 など)

<教育内容・育成する人材像>

・幅広い視野で柔軟な施策を行うために必要な知識を基礎から十分理解する“現代のリベラルアーツ”科目を配置する。

・専門科目においては、文理融合の学科の特色を生かし、人間と社会に関する社会科学の基礎の徹底を図るとともに、情報(デジタルメディアを含む)、AIとデータサイエンスの基礎的な知識を修得させ、その知識を活用して問題解決に取り組むようにする。

・単に知識を教えるのではなく、実習形式科目、演習形式科目を通じ実践的かつ能動的に学修し、卒業後も使える「ものの考え方」(論理的思考方法)をさまざまな授業科目を通じて身に付けさせる。

・全学的な英語教育と連携して、専門科目を英語で教える授業科目を複数提供して、卒業後にグローバル社会で活躍できる基礎を身に付けさせる。

・これにより、将来、社会で活躍するための基盤となる学術を基礎から十分に理解し、実際に社会でその知識、判断力を使うことができ、粘り強く活動し続けることができる人材、すなわち**実社会で激変する世界(ストリート(現場))を縦横無尽に駆け巡り知的に(スマートに)活躍できる ストリート・スマートなグローバルプレイヤー**を育成する。

